

## 平成 25 年度 第 7 回 佐鳴湖のみらいを育む会 議事要録

日 時	平成 25 年 8 月 31 日 9 : 30 ~ 12 : 00	次 第
会 場	浜松総合庁舎 1F 大会議室	1) 開会 2) 今後のスケジュールについて 3) 取り組み内容の確認 4) 部会 -中目標の検討- 5) 事務局より 6) 閉会
参加者	会員 12 名、行政担当者 14 名 事務局 9 名	

1) 開会あいさつ	事務局
暑い中、御参加いただきありがとうございます。本日は、取り組みシートの確認を行い、その後中目標の検討を行いますので、よろしくお願い致します。	
2) 今後のスケジュールについて（資料 1 により説明、質疑）	説明：事務局
質疑なし。	
3) 取り組み内容の確認（資料 2 により説明、質疑）	説明：事務局
<b>【質疑】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事録は、発言者の発言の意図が合っているか、確認を取った上で最終版を確定されたい。例えば、私は佐鳴湖憲章に反対だが、資料の「第 6 回の意見」として市民憲章としての緑地保全という意見になっている。そういう意図で発言したのではない。誤解して記入することのないようにしていただきたい。</li> <li>・ 意見への回答が、詳しく検討した上で回答していただいているように思えない。例えば、「微生物などによる水処理の調査」への回答は、その場で回答できる内容である。この 1 ヶ月間、何か調査されましたか。（メンバー）</li> <li>・ 自治体に調査書を郵送し、調査結果を報告していただくよう依頼している。（事務局）</li> <li>・ 依頼文を出しただけだと思う。私どものジジミプロジェクトは、東大の山室先生に御講演いただいた。その中で驚いたのは、肥料よりも農薬の流れ込みによる沈水植物の減少が課題であること、湖沼の場合は硫化物などを計測している可能性があるため COD による評価は適切でないと考えられること、ヨシの刈らなかつた部分がヘドロになるのでヨシの植栽はやめた方が良いということであった。この点は積極的に考えるべきことである。これまで浜松市が積極的にヨシを植栽した経緯を御存知の方は教えていただきたい。（メンバー）</li> <li>・ 議事録については、誤認識があつてはいけないので、議事録案を作成した段階で、皆様に御確認いただくこととする。</li> <li>・ ヨシの植栽は、地域協議会で地域との合意のもと計画に位置付けた対策として、湖岸の 40% を目標に取り組んできた。佐鳴湖においては、毎年 10 月 11 月にヨシ刈りイベントを実施し、刈り取ったヨシは適切に湖外に搬出している。この活動は市民との協働で、浄化活動への意識啓発にもなっている。ヨシが枯れて沈みヘドロ化することは好ましくないが、佐鳴湖ではヨシが枯れる前に適切に刈り取り処理を実施しているため先生が危惧されるようなことはないと考えている。今後もヨシ刈りイベントは継続して実施していきたいと考えている。（事</li> </ul>	

務局)
<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨシの植栽計画に、新川といった流入河川は含まれていますか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川は含まれていない。現在新川は、河床に土砂が堆積してヨシが自然繁茂し、河積阻害を懸念されての御発言であると考え。コストを縮減して刈り取る方策を検討しているが、具体的な方向性は決定していない状況である。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>湖内は計画的に植栽し、流入河川は自然に増えたということか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>その通りである。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境を元に戻すことが命題である。戦前に佐鳴湖にヨシが自生していたかは調査すればわかる。静岡県でどのように考えてヨシを植栽したかわからないが、私は方向性が間違っていると考えている。佐鳴湖には、片葉のアシは生えていたが、ヨシは自生していなかったと思う。ヨシを植栽することが本当に良かったのかを決めるのが、この会であると思うし、専門委員会である。当時の知識はそうであったが、戦前に思いを馳せながら検討しないで、良いことだからやろうということだけで進んできてしまった危険性もある。</li> <li>戦前からヨシは生えていたのか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>戦前のことはわからないが、佐鳴湖に元々自生するヨシはあったものと考え。現に北岸一帯に広がるヨシ原は、自生によるものである。東大の先生はヨシの植栽を懸念していらしたが、取り扱いについて、専門委員会や学識者、協議会、育む会で今後議論していきたいと考えている。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>私は、幼い頃からここに住んでいる。河川にも北岸にも昔からヨシは生えていた。ヨシが枯れてヘドロになることは確かであるから、私は刈り取ることを積極的に進めている。そのために、北岸のヨシを刈ってほしいと、これまでも要望してきた。新川のヨシも、予算的に大変であろうが、ぜひ刈り取ってほしい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>新川のヨシ対策は所内で検討していく。</li> <li>現在、湖岸には3万㎡ほどのヨシ原が広がっている。北岸以外は、ヨシ刈りイベントや、深み等に生えるものについては専門業者による刈り取りを行っている。北岸については、静大艇庫の件でも話題になったとおり、佐鳴湖に唯一残された従来からの良好な自然環境であることから、ヨシを刈り取る行為にすら反対する地域からの声もあるため、そのような状況も含めて議論したい。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>北岸のヨシ刈りについて、野鳥の会等で問題にされたことは承知している。しかし、ヘドロの元となっているのは枯れた部分で、ヨシはまた翌年必ず生えてくる。そのことを踏まえて、ぜひ刈り取るべきである。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。皆で議論していきたいと思います。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の問題は、ここは変えてはならないという特有のところがある。それを調べて、全面を刈らないとか、この時期は野鳥の繁殖の時期であるとか、細かいところを配慮しないと上手くいかないと思う。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>野鳥の会等、各分野の御意見を聞きながら進めてまいりたいと思います。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>東大の山室先生がおっしゃった農薬とCODの話は、忘れないでいただきたい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>面源負荷対策として、道路愛護制度の力も借りて実施するとあるが、これは市の施策という</li> </ul>

<p>ことよろしいですか。(メンバー)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路は政令市に移管されているため、市の施策である。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民が河川周辺や道路に花等を植えているが、花の苗の提供等の補助があると思う。地域で活動する団体とのタイアップが必要だと思うがどうか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>申し訳ございませんが、本日道路課の担当が欠席していますので、改めて担当課に確認することよろしいでしょうか。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>お願いします。</li> <li>面源負荷については、私どもの地区では、自治会の一斉草刈り等で、広い排水路の清掃を行なっている。住民が行うのに適さない危険な場所があるため、南土木整備事務所から予算を出していただき、市が清掃を行なっている。しかし、南土木整備事務所から、しばしば予算が足りないという話がある。そのような場合、河川課に相談することは可能ですか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各土木整備事務所の河川維持除草等の予算については、河川課が予算の取りまとめを行い、土木事務所に配分している。現状を見て、市内全域で配分しているということで、ご理解いただきたい。(河川課)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>蚊が大量発生したり、異臭がする所がある。また、作業中に怪我をしたり、腰を痛めた人もあり、市民には負担が大きいということで、市にお願いして、業者に委託しているのである。河川課でできないのであれば、どのようにしたらよいのか、逆に知恵をお借りしたい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>草刈りや浚渫の要望が各地から出ており、全てに対応できていない状況である。異臭がする等の特殊事情がある所は優先的に実施するという考え方で対応したいが、そのような状況であることをご理解いただきたい。(河川課)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市の事情もあると思うが、住民も排水路に入って作業し、環境整備や面源負荷の努力をしている。大変なところであるから要望が出ていることを忘れないでいただき、来年度の予算要望の参考にさせていただきたい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>面源負荷対策の「既存のパンフレットの活用」は、どのパンフレットを指しているのかわからないが、猪苗代湖周辺では、米作農家の機械や施肥の考え方から、素人でもわかるような対策を実施している。既存のパンフレットの実施項目は実施していただきたいし、パンフレットを十分活用していただきたいが、先行地の施肥量適正化についてもう少し調べて、未来を夢見るかたちに農家も取り組んでいることを上手くガイドしていただきたい。これは実施する価値が高いし、農家も得にもなると思う。農家の方も得になり、水質も改善するという内容でなければ、何で佐鳴湖に関係があるのかという被害者意識が出てしまう。「佐鳴湖のみらいを育む会」にふさわしい夢がある言葉にさせていただきたい。</li> <li>雨水浸透ますは、小金井市の考え方を調査していただき、ありがとうございます。三鷹市についても同様の調査をお願いしたい。浜松市においても新川や段子川のゲリラ豪雨はあり得るため、合流式はよくわかるが、もう少し前向きな検討をお願いしたい。</li> <li>文言は、「実施する」と「検討する」を使い分けている。最後の採用は地域協議会で議論されるが、ここでの提案は全体的に実執行動の言葉でまとめていただきたい。(メンバー)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年、環境保全課と「農地の肥料成分の流出抑制」について記載したパンフレットを農業者向けに配布した。こういったものを活用して啓発していきたい。また、農家が得になるような文言を入れることについては、農業をするにあたって施肥をゼロにすることは不可能であることから、個々の農家で大幅に削減することは難しいけれども、たくさんの農家が少しずつ実施することで大きな効果があると考え、啓発していきたい。(農林業振興課)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 佐鳴湖で成功例を作ると、猪鼻湖まで考え方が波及するので、ぜひ重点的に取り組んでいただきたい。自民党政権は、20年前に農家に対して1000億ぐらいの環境助成制度を実施していた。福島県が実施している制度もあるため、ぜひ研究していただきたい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三鷹市の事例については、今後調査して有効な対策について考えたい。「検討する」という明確でない部分については、今後関係課と調整を図って明確化できるように考えたい。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三鷹市は、20年計画で、適正設置可能箇所を事前に整備し、今50%、5万世帯を超える状況であると思う。そのために様々な準備をしている。この報告書の中では、前向きな言葉でまとめていただきたい。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三鷹市の対策については、早速調査したい。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 文言については、現在各課で詳細検討中のところもあるので、実施につなげるかたちで努力したいと考えている。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• お願いします。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 面源負荷のパンフレットは、メンバーに配っていただくとわかりやすい。</li> <li>• 除草剤の使用が、沈水植物を枯らした原因になったと考えられるが、除草剤の使用量について、何かご存知のことはあるか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 除草剤の使用は、農家以外の一般の方も対象となるため、使用量については資料がない状況である。(農林業振興課)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市民に面源負荷について啓発すると同時に、除草剤を使用することで、佐鳴湖が汚濁することについてもお知らせしていただきたい。</li> <li>• 「微生物などによる水処理の調査」で他自治体の調査結果を聞き取りする担当課は、どの課ですか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境保全課と保健環境研究所です。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門家は、どのように調べていますか。(メンバー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 微生物の専門家についてはまだわからない状況である。地域協議会の中で、専門委員について調査し、今後生物に詳しい専門家に聞き取りできればと考えている。(事務局)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• この計画は平成27年度以降の計画であり、計画策定には、シミュレーション等の資料を参考に、効果的に予算を確保しなければならないと思う。前回、戸田先生がおっしゃったように、文献も少なく、専門家も少ないようである。微生物処理は非常に難しい。私が調べた中では、沖縄の比嘉先生や、マイエンザ(えひめAI)を開発した曾我部先生に、いろいろ伺っている。比嘉先生は、水処理できるとおっしゃっている。曾我部先生は、微生物によって底生動物を活性化させて浄化するとおっしゃっている。意見が異なるので、両方の先生に聞き取りしていただきたい。両先生は、どのような研究かはわからないが、共同研究を行い、実</li> </ul>

<p>際に曾我部先生が実施した方が3倍の効果が出たということであった。また、東大の山室先生に講演会で意見を伺ったところ、水処理については疑問を持たれていたが、佐鳴湖の水に合うかどうか基礎研究してみて採用してはいかかとおっしゃっていた。平成27年度以降、聞き取りすると同時に、基礎研究を始めていただきたい。(メンバー)</p>	
<p>4) 部会 -中目標の検討-(資料3、4、5により説明)</p>	<p>説明：事務局</p>
<p>資料3により、中目標の検討の流れを説明した。また、検討の参考として、資料4により水質の最新情報、資料5により市民アンケート調査結果について説明した。</p> <p style="text-align: center;">検討結果の詳細は、別紙参照</p> <p>今回いただいた意見をもとに、イメージを共有できる中目標を考え、次回事務局案を提示する。</p>	
<p><b>【質疑】</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水質・水量部会で、においがあるという意見があったが、私にはおわないし、他の人からも「今はない」と聞いている。確かに、昭和30年頃はおいがあった。奇形の魚もいたが、今はない。また、ゴミがたくさんあると言う子ども達もいるが、それほどゴミはないと思っている。佐鳴湖のよいイメージをもっとアピールするべきだと考える。(メンバー)</li> <li>・ 時期や時間帯や風向きによって、少しにおいがあるという御意見があったため、そのような発表になったと思う。</li> <li>・ 佐鳴湖には良い面はたくさんあると思っているので、それをPRしたいという御意見は非常にありがたい。私共も年間を通して数回小中学校で出前講座を実施するが、先入観で汚いというマイナスイメージを持っている児童が多い。出前講座等、各機会に、水質浄化はもとより、佐鳴湖の良いところを極力PRするよう話している。より広く周知し、悪いイメージを払拭していきたいと考えている。PR手法については、今後も皆様の御知恵をお借りしたい。(事務局)</li> </ul>	
<p>5) 事務局より</p>	<p>事務局</p>
<p>資料により、佐鳴湖交流会の開催と、発表者の募集についてアナウンスした。</p>	
<p>6) 閉会あいさつ</p>	<p>事務局</p>
<p>本日は、目標についてある程度議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>今後は、この目標に向けて取り組みを実施した場合の効果について、科学的な分析・検討を行う業務を予定している。その成果を基礎資料として個別の目標について議論し、合意を図ってきたい。引き続きよろしく申し上げます。本日は長時間に渡り議論をいただき、ありがとうございました。</p>	

以上

## 部会検討結果

### 中目標（参考）

水質・水量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泳げる湖にしたい（最終目標）</li> <li>・当面、水辺で子ども達が遊べる環境を目指す</li> <li>・透明度 60cm→足元が見える</li> <li>・においがしないように</li> <li>・水が流れるように</li> <li>・日陰ができるようにして、水温を下げる</li> </ul>
自然・生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が水遊びできる水質を目指す</li> <li>・流入河川を含めた生態系のあるべき姿を明らかにする</li> </ul>
周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全周！！驚き連続</li> </ul>

↑これで決まりではなく、これらを参考に中目標をこれからつくります。「〇〇な佐鳴湖にしよう！」などを2～3案提示します。

### 分野目標（環境分野）

※○印は各部会での重点的な視点のものです。

#### <水質・水量部会>

環境分野		意見
1	排水対策 (点源負荷対策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道の整備率を上げる。</li> <li>・合併浄化槽の設置率を上げる。</li> <li>・自治会等で啓発するため、説得するデータがほしい。</li> <li>・COD 5mg/l</li> </ul>
2	面源負荷対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川が汚くなっている。 流れこむ水をきれいに</li> <li>・エコファーマーにメリットがあるような仕組みづくり</li> <li>・排水路の泥が大水で流れる→泥上げ等の対策を →自治会が積極的に進める仕組みづくりが必要</li> <li>・調整池での対策は？ 沈殿処理、浸透などできないか？</li> </ul>
3	水量増加対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水量を増やす→浸透ますの設置(地下水)、浄化が進まなければ導水も</li> <li>・浸透ますの導入システムの変更</li> <li>・河床の二面張りを進める</li> <li>・きれいになる水量がほしい。→どのくらいの湧水量が必要か？</li> </ul>
4	水処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物の基礎実験を始める。</li> <li>・専門家に参加してもらおう。</li> <li>・せせらぎ水路を活用</li> </ul>
5	モニタリング・検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションを行う予定(協議会)</li> <li>・過去のデータのまとめ←気温、水温、COD、透明度</li> <li>・塩分濃度を継続的に測定→公表する</li> </ul>
6	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が読むようなパンフレットをつくる</li> <li>・出前講座→子どもから親へ PR</li> </ul>

<自然・生物部会>

環境分野		意見
7	自然環境・水辺環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が(子ども達)水遊びできる湖岸であるべき</li> <li>・浅いところもすきな魚も深いところもすきな魚も住める川</li> <li>・緑を保全する。</li> </ul>
8	生息環境創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな生物・植物が存在する環境</li> <li>・「水清ければ魚住まず」は本当か？佐鳴湖はそこまでいっていないと思う。もっと浄化するべき</li> <li>・汽水湖なので、魚の餌場としてはよい。魚種が多い。</li> <li>・透明度はほしい。昔からそんなにきれいではなかったが、湧水が減り、水温が上がり、滞留日数が増えている。</li> <li>・流入河川を含めた生態系創出</li> <li>・渚をつくりたい(昔の湖岸はほとんど渚だったらしい)</li> <li>・生物環境→流入河川のアシ除去 川としての多様性が重要</li> <li>・水生植物としてヒシはどうか？花博公園の池を参考に</li> <li>・植物を導入しても、刈り取る必要がある</li> </ul>
9	景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流入河川をほどよく手入れする。</li> <li>・ほどよく手入れする(里山のように)里湖</li> <li>・単純な形であるため、入江など変化のある湖岸景観が理想ではある。</li> <li>・住宅から水辺が開ける景観は良い。</li> <li>・自然がメインの公園であるため、あまり花を植える等の手を加えたくない。</li> </ul>

<周辺環境部会>

環境分野		意見
10	歴史的価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文人は、シジミを捕り生活していた。</li> <li>・水運として利用⇒舟による運搬 浜松城の石の運搬 富塚地区産業の発達のため物資の運搬</li> <li>・佐鳴湖を中心に多くの史跡がある。</li> <li>・大切にす意味合いを知る。</li> <li>・新しい佐鳴湖八景を見つけるとしたら・・・どうなるか。</li> <li>・時代を通して愛されてきた佐鳴湖(水泳、釣り、ボート、お花見) (古代、近世、近代、現代)</li> </ul>
11	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな大好きぼくらの佐鳴湖</li> <li>・緑がいっぱい生き物いっぱい</li> <li>・佐鳴湖の良さを知る。このための資料館等を作る。生物、植物、歴史、遊べる場所であった。</li> <li>・学校での学習を一段と強化して、古里を愛する心を育む</li> <li>・環境整備に若い人が積極的に参加したくなる仕組み</li> <li>・佐鳴湖は水に入ってもいいコトをアピール！！</li> <li>・環境の保全 緑の保全 斜面緑地の保全 森の大切さを知る 緑と水資源の保全</li> </ul>

分野		意見
12	交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親に対して佐鳴湖の魅力を伝える イベント(自然、歴史、治水)</li> <li>・佐鳴湖の利用者増加対策としては、花壇を増やし、女性客の増加が男性客(高齢者)の引っ張り出しにつながる。</li> <li>・地元の食材を食べられる。</li> <li>・エコファーマーと佐鳴湖の関連をPRしよう！！</li> <li>・飲食の場の確保については、小さな売店で、そのみで飲食する。出来るだけ排水を減らす。自動販売機は設置しない。</li> <li>・四季折々の花、樹木育成 目指す姿はオランダの公園</li> <li>・出来れば上下近接公園とリンクした公園づくりとツアープラン</li> <li>・野外ステージを利用して観月会、佐鳴湖コンサートなどのイベントが出来たらいいですね。佐鳴湖に映る月は最高です。</li> <li>・遊びながら佐鳴湖のよさ発見</li> <li>・生き物(動物・植物)を大切に、共生する道(生き方、遊び方、考え方)</li> </ul>
13	ルールづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐鳴湖利用マナーの向上については、資格者を決めたらどうか。</li> <li>・ワーストワンの観念が強すぎる→よみがえりつつある佐鳴湖の啓発</li> <li>・出店(飲食)のルールをもう少しハードルを下げたらどうか？</li> <li>・西岸道路について、自動車の運転マナーとともに歩行者のマナーも向上を！！西岸道路に人車ともに共有できるようになればいいです。(緑がたくさんある道路なので)</li> </ul>
14	利用性・安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺で遊べるような所を作る。釣り、シジミ捕り(将来)</li> <li>・利用され易い方法を考える。遊歩道を更に良くする。照明、遊歩道の改良(中)</li> <li>・ヤングファミリーが集まり易い公園内遊具:安全・楽しいツール</li> <li>・駐車場の増加対策を検討してほしい。</li> <li>・全周水辺“公園化”の完成</li> <li>・安全のために 交通の安全 照明を考える</li> <li>・健康づくり さわやかウォーク 佐鳴湖マラソン</li> <li>・健康づくり 泳げる 歩く 走れる 仲間づくりの場に</li> </ul>